

第 25 期第 4 回 自動運転と共創する未来社会検討小委員会 議事録

日時：令和 3 年 11 月 4 日 17 時～19 時

場所：オンライン開催

出席者（名簿順，敬称略）：小野悠，鎌田実，永井正夫，山川みやえ，佐倉統，田中和哉，中野公彦，今井猛嘉，加藤晋，栗谷川幸代，谷口綾子，藤井秀樹，中村彰宏，中村弘毅，ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク

配布資料

なし

議題

0. 第 3 回議事録確認

1. 情報共有

学術フォーラム「ELSI を踏まえた自動運転の社会実装ー自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイナー」に関して，ホームページに公開されるポスターの内容について確認した．

2. 話題提供

2.1. 自動運転を前提とした分析を使った PDCA によるサービスや都市・まちづくりについて（田中和哉委員）

自動運転が生活空間に与える影響，まちづくりに活用できるデータに自動運転が与える変化，MaaS への期待と現状の課題などについての問題提起と，分散ネットワーク型都市開発を実現するスタートアップ事業の事例として，観光 MaaS 事業，データ駆動型 DX 事業，アジャイル不動産事業についての話題提供が行われた．移動・滞在傾向の分析に基づいて消費者には滞在先の推薦や巡回スケジュールの最適化などを提供し，事業者には需要予測に基づく人員配置やコンテンツの提案などを提供する技術を基盤としており，その技術を活用して瀬戸内における観光 MaaS 事業や三浦半島における DX 事業に活用している事例が紹介された．また，スタートアップ事業の規模が成長する段階ごとに必要な場・機会の提供が少なくイノベーションを妨げている現状があり，それに対する取り組みとしてアジャイル不動産事業が紹介された．自動運転との関連としては，自動運転車はデータ収集エージェントとしての役割が期待でき，リアルタイムに多様な個人のニーズが収集できるため観光事業などまちづくりへの応用が期待できることなどが紹介された．

さらに，事業化を進めるにあたって，時限的な補助金に頼るのではなく，ある地域に関わる大企業などと連携して持続的に運営できるビジネスモデルを重視している点や対象とな

る地域の選定方法，MaaS がプラットフォームビジネスとして成立するためのデータ共有の課題，現状個別対応しているサービスの類型化についての議論がなされた。

2.2. 自動運転移動サービスの社会実装に向けた産総研の取り組みの紹介（加藤晋委員）

ラストマイル自動走行の実証評価プロジェクトに関する話題提供が行われた。当該プロジェクトは 2016 年度から 2020 年度にかけて経産省・国交省の「高度な自動走行・MaaS 等の社会実装に向けた研究開発・実証事業」の一環として行われたものである。過疎地モデルとして、永平寺町における長期実証実験を例に、走行環境に合わせた遠隔型自動走行（SAE レベル 3 相当）実験車両技術の開発、事業化に向けた長期間の利用者数の推移、運行形態別収支案などが紹介された。また、高齢化市街地モデルとして輪島市、観光地モデルとして北谷町における実証評価についても紹介された。さらに、2021 年から開始された自動運転レベル 4 等先進モビリティサービス研究開発・社会実装プロジェクトの実施目標についての紹介があった。

実証実験ごとにレベル 2 から 4 と定義が異なるが、同時に監視する車両数や、1 台を遠隔操作中に他車両をどのように扱う（一時停止・走行）かの対応により区別している点や、実証実験を通じてどのような行動変容を期待するのか、実際の事業化の可能性についての議論が行われた。

3. その他

時間内に議論できなかった点は引き続き SLACK にて質疑応答を行う。

次回以降はメールにて日程調整。12 月下旬を予定